

No.113

公民館だより

平成13年11月

宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

公民館の課題

由良地区公民館館長 飯澤登志朗

公民館長をお受けして半年が経ちました。

米同時多発テロという世界を震撼させる出来事は絶対許されない行為であり、悲しい思いが強が残っています。

翻って国内にも弱者である子どもに関する暗いニュースが後を絶ちませんが平成十四年度から、学校週五日制の実施により公民館活動にも関係する施策が求められるようになりました。

最近開催されます公民館の研修会、セミナーは必ず子どもを中心とした取り組みがなされ講演や実践発表が繰り返し実施さ

れています。

由良地区公民館では、これらの施策を受けて平成十二年度から地引き網や料理教室といった体験しながら学ぶ、そして地域の人たちとふれあいを大切にする活動を行ってきました。

地域の子どもは、学校やPTA、子供会に任せたら良いとの考えがありますが本当にそうでしょうか。

年配の方々との話の場で、昔は家庭のしつけがきびしかった。

昔は近所の大人によく注意された。

・上級生に遊びを習ったし、悪いことも習ったが今ほど陰湿ではなかった。

等々よく出てきます。

イメージとして世間で広く浸透していたのかも知れませんが必ずしもそうであったとは思えません。

親の都合で手伝いをさせられていたかも知れません。

大人の勝手に叱られていたかも知れません。

正しいとか間違っているという事ではなくこれからどう取り組んでいくのかを皆さんと一緒に考えてみたい課題です。

次に先に開催しました区民運動会について多くの方々からご意見や感想が寄せられています。

今回も小学校と連携をとりプログラムに児童の演技を入れましたが、核家族化が進み、なかなか見る機会の少ない児童の可愛らしい動きに魅せられています。

反面、多くのご意見に「進行

をもっと早くできないのか」があります。

運動会役員からは「いくら説明を繰り返しても聞いてくれない」「集合をお願いしても集まらない」と報告があります。

一般からは「放送が聞こえない」「説明が長すぎる」と反論があります。

それぞれの立場で皆一生懸命取り組んでいるのですが、結果的には不手際が残ったと反省しています。

一番大きな問題は、少子高齢化により出場する選手の絶対数が減少していることでしょう。

公民館では人口や年齢構成について資料を集め、プログラム編成に検討を加えてきましたが、そのことが十分反映出来なかったことは否めません。

運動会を止めたら、という意見もありますが由良地区全体が一堂に集う機会を失いたくありませんし、もっと大切にしていきたいと考えます。

行事報告

主事 枝川 隆 亮

◎六月三日(日)

第13回宮津市地区対抗 駅伝競走大会

今年の日ヶ谷小学校をスタート、市民体育館をゴールとする北部コース12区間28・2kmを11チームで競いました。

由良チームは見事準優勝の栄冠を勝ちとりました。

五月七日から六月一日までの約一ヶ月間トレーニングを実施しました。毎夕七時から二時間厳しく熱心なコーチの指導に耐えぬいた選手の練習の成果です。コーチ・選手諸君に拍手を送ります。
来年はぜひ優勝しましょう。

◎六月十日(月)

四部対抗バレーボール 大会

バレーボール大会は例年二月の厳冬期に開催されていましたが、激しい運動は冬場は向かないし、事故等も考慮し夏場へ移動し、六月十日に実施しました。

チームワークの堅い地区が多く見られ、珍プレー・好プレーに拍手喝采があり、白熱の試合展開で大いに盛りあげられました。結果はつぎの通りです。

男子の部		女子の部	
優勝	三部	三部	三部
準優勝	一部	二部	二部
三位	四部	一部	一部
四位	二部	四部	四部

◎八月十二日(日)

四部対抗球技大会 (野球、ソフトボール)

今年の球技大会は八月十二日に開催しました。昨年度から日曜日開催に変更された為、お盆には少し早い日の実施でした。成績は次の通りです。

「青年野球」	優勝 四部
「一般ソフトボール」	優勝 四部

◎八月十九日(日)

盆踊り大会

本年度も松原寺境内での実施でした。

子供地藏盆では民謡の会の演奏のあと大江町よりの鬼太鼓の熱演に感銘を受け、第二部では宮津節・えへい踊りなど三重の輪で晩夏の夜を満喫しました。先輩が残した丹後由良の文化・

芸能を保存するのは我々の役目だと思えます。ずっと続けてゆきたいものです。

◎九月二日(日)

由良地区運動会

今年の夏は大変な猛暑が続きましたが、九月に入ると秋を感じる様になりました。

小学校のご協力を頂いて、恒例の地区民運動会が開催できました。少子高齢化が進み、各部門も選手を集める苦労が大変だったと聞いています。次回は大幅な内容の変更をする時機に来ていると思います。

地区民が一堂に会しての行事は運動会しかありません。皆が参加でき、得点にとらわれないおもしろい企画を考えたいものです。

成績は第三部の優勝です。総合力・団結力を発揮されました。最後に、自治連合会・婦人会を始めご協力いただきました関

係者の皆様様に厚く感謝申し上げます。ありがとうございます。

◎九月三十日(日)

由良練り込み太鼓披露
「NHK健康フェア」

みんながつくるみやづ健康ふれあいまつりの行事の一環としてNHK健康フェアが行われました。

午前九時三十分開演のトップバッターとして由良練り込み太鼓の演奏があり、八〇〇名収容の宮津会館で開館以来の超満員の観衆を魅了、大拍手が響きました。

伝統ある由良の太鼓を他地区の方々に披露できたことは大変意義深い事と思います。

テレビで放映して頂けないのが大変残念！

鼓手を始めスタッフ総勢四十二名の皆さん、大変ご苦労さんでした。

◎お知らせ

シニアソフトボール
チーム誕生

従来、由良地区はスポーツが盛んで、また周辺地区にその名を轟かせてきました。

近年、少子高齢化の波がご多分に漏れず由良地区にも押し寄せて、スポーツ熱も低下の一途をたどっているように思えてなりません。

私たちも若いとは思いませんが、まだ老け込むつもりはなく、たとえ「としよりの冷水」と言われようともこの際もう一度若い頃を思い出しながら、夢とともに白球を追いかけてみたいと思います。

健康増進と、生き生きした日常生活を求めてグラウンドに集まってみませんか？

皆様からのご連絡をお待ちしております。各自治会長までお知らせ下さい。

お泊まり保育

由良幼稚園・由良小学校長 水谷洋子

九月二十八日午後から二十九日午前中の二日間、かもめ組十三名の園児が、栗田幼稚園児十名と合同で、舞鶴市神崎にある「まいまいハウス」でお泊まり保育を行いました。

これは、平成十二、十三年度文部科学省より「幼稚園における道徳性を培う活動等の充実に

関する調査」委託を、由良・栗田・宮津の三幼稚園が受けており、各園の特色を生かして進めている取組の一つです。

本園では、「身体づくり」(浜の子マラソン)、「小動物の飼育や植物菜園づくり」

「幼小合同学習」(親子でふれあい体操・ブックトーク・砂の造形等)「地域の人とのふれあいによる体験」(もち米作り・みかん狩り・お茶会)等、

地域の特性を生かした豊かな体験活動を通して、豊かな心をはぐくんでいきたいと考えています。

そして、昨年より新たに、「お泊まり保育」を実施しました。

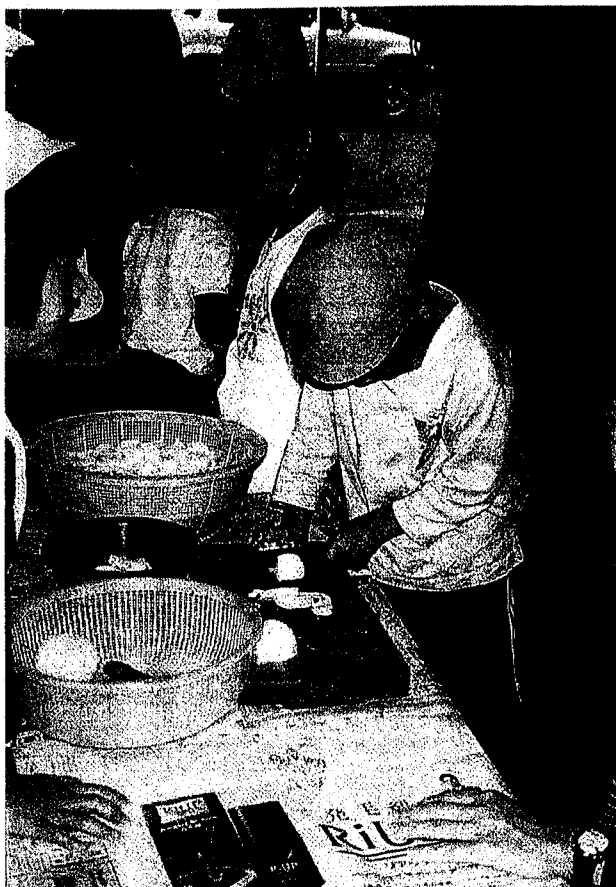
四、五歳児が、友達や先生と一緒に泊まり、生活に必要な行動を一人ですることにより、自立のきっかけとしていくことと、



友達関係を深め思いやりの心を
育むことをねらいとしています。

一学期から、包丁が使えるよ
うに自分たちで野菜を刻み、小
学校の烏骨鶏や鶏にえさやりを
しました。二学期には、歌やフォ
ークダンスの練習とともに、人參
やじゃがいもの皮むきも練習し
ました。

当日は、全員そろって元気に
「まいまいハウス」に行くこと
ができました。ハウスは幼児用
の施設になっていて、便所や風



呂、洗面所、布団などが幼児向
きに作られていて、使い易くなっ
ています。

開会式に施設長さんと三人の
ボランティアさんに元気よくご
あいさつをしました。

お世話になるボランティアさ
んの大森さん、中西さん、藤本
さんの三人とも由良の方なので
子どもたちを知っていたらいて
おり心強かったです。

到着後、館内見学をし、早速
歌やフォークダンスで交流しま

した。最初は、緊張気味の園児
も、楽しそうに溶け込んでいき
ました。

夕食のカレーライスの準備と
なり、ボランティアさんに下処
理をしていただいた人參とじゃ
がいもの皮をむきました。

どの園児も、集中して、手を
すべらせないよう真剣に皮をむ
きました。皮がむけたら、包丁
で切ります。細心の注意を払っ
て切っていました。

大きいのが小さいのや切り方
はまちまちでしたが、上手に切
ることができました。

ボランティアさんに、炊飯と
カレーの煮込みをお願いしてい
る間、園児たちは、散策に出か
けました。栗のように大きなど
んぐりが落ちていた場所を教え
ていただき、ポケットや袋にいっ
ぱいのどんぐりを拾って満足そ
うに帰ってくるおいしそうなの
カレーのにおいがしていました。
手洗いで、「いただきます。」を
して、食べました。



「おいしい。」の連発でした。
おいしく作っていただいたの
と、自分たちが心をこめて切っ
た材料が入っているの、おい
しさも倍増したようで、ほとん
どの園児がお代わりをしました。
次は、入浴です。お風呂洗い
タオル、拭きタオルと着替え、
パジャマ、顔拭きタオルを、そ
れぞれ小袋に分けて入れてある
ので、園児も取り出しやすく、
スムーズにお風呂に行けました。
タオルに石鹸をつけて、自分

でございしと洗いました。全員一緒に湯船につかるのもとても嬉しそうでした。

寝る支度も自分でします。布団を敷き、掛け布団をかけてまくらをおくと、まだ七時半なのに、みんな布団の中にもぐり込んでしまいました。

夜の交流は、先生達による人形劇のあと、由良と栗田で手作りのプレゼント交換をし、一層仲良しになりました。

夜は、八時半に消灯して就寝。半数の園児は、間なしに寝付き十一時には全員が寝静まりました。夜中には、布団をけ飛ばすのをかけて回りましたが園児は六時半の起床まで、ぐっすりと熟睡をしていました。

起床後の洗顔、着替え、ふとんたたみ、荷物の整理も自分でやらねばなりません。

パン、バナナ、牛乳の朝食後は、部屋の掃除をし、閉会式で施設長さんとボランティアさんにお礼を言って、ハウスを後に

しました。

由良駅では首を長くして待つておられる保護者の出迎えを受け、全員無事に帰ることができました。

このお泊まり保育を実施して感じるのは、子どもは、本当に色々な可能性を持っていることに改めて気づかされることです。また、幼稚園では気づかなかつた一面を見ることもありました。

園児には、楽しい思い出と共に、自分の身の回りのことを、自分一人でやりとげた充実感や、友達や先生と一晩過ごした体験が、大きな自信となり、成長につながる機会となりました。

お泊まり保育後は、園児の心の通い合いが深まり、お互いに声を掛け合い、自分たちでやりとげようとするなど、自立へ向けて積極的な姿が見られます。

保護者のご協力やボランティアさんのご援助に心より感謝します。有り難うございました。

駅伝大会

六月三日駅伝がありました。

駅伝の日のために五月の初めごろから練習をしていました。グラウンド二週のインターバルや二キロメートルのタイムトライアルなどを、毎日していました。足が痛くて、練習に行きたくないときもあつたけれど、補欠でもいいから出たいという気持ちがあつたから、がんばつて行っていました。そして、ぼくは、補欠になることができませんでした。でも選手になって走ってみたかったです。

駅伝大会当日、ぼくは、七区の補欠でした。選手がだめになつたら、いつでも走るぞと思つていました。

開会式が終わつて、七区の天橋立に行きました。選手の船野君と、約一キロアップして砂浜でダッシュを二本しました。

六年 大森 拓也

ゆつくり歩いてまつていたら、由良チームの人が四位で走ってきました。船野君がたすきをもつて、走ってきました。

ぼくは、がんばれ、がんばれと心の中で応援しました。そして、選手の船野君が走つて行つたので宮津会館にもどりました。

みんなと話をして待つていたら、由良チームが来ました。みんな、府中チームが一位で入ってきたのを知らなくて、びっくり、一位だと思つていました。結果は二位でした。

いい成績が出たので、よかつたと思います。

もし、ぼくが選手として走つていれば、もつとうれしかつたと思います。

駅伝大会に参加して

四年 尾崎 華

きんちょうした一番走者

五年 田中 結人

わたしは、ほけつとして初めて、駅伝大会に行った。里セクターに集合した時、せん手の人たちは、きんちょうと「がんばろう」という気持ちで、いっしょになったような顔をしていた。わたしは、せん手ではないので、走ることはないけれど、心ぞうが、ドキドキしていた。

開会式を終え九区に行った。そこはくみちゃん走るコースだ。いっしょに体そうやジョギングをした。待っている間、わたしの心ぞうはドキドキしたりしずかになったりのくり返しだった。そうしていると、おじさんが走ってきた。ふ中地区のせん手。一位だ。次は、だれか。ずっと後ろを見ていた。来た。二人ほど見える。あつ由良だ。二番目に入って来たのは、由良地区だった。タスキをもらったくみ

ちゃんが走った。「ガンバレ、くみちゃん。あと少し。」と何回も何回も同じ言葉でおうえんした。くみちゃんは、あせだくでもどつてきて、次の人に、タスキをわたした。ハアハアいつているくみちゃんを見てみると、力を全部だしきってがんばったんだろうなどと思った。タスキは、次々にわたされ、由良地区の結かは二位だった。一人一人の力と気持ちでいくことよって次の人へと伝えられ、みんなが、がんばった結かだと思った。わたしも、いつか、この駅伝大会に出られるようにがんばりたい。

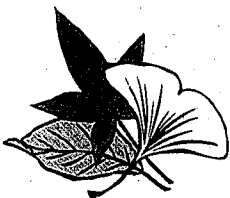


ぼくは、駅伝大会に一区走者として参加しました。ぼくにあって初めての駅伝、しかも一区走者。プレッシャーときんちょうでおしつぶされそうになりました。ぼくは、アップをして体そうをしていくにつれてプレッシャーがのしかかってくる。それもそのはず、ぼくと走るのにはすべて六年生だったので。ぼくの心の中は「最後になったらどうしよう。」という事でいっぱいになった。

そしてスタート直前の秒読み、スタートが近づいていく。「ドン」ピストルの音とともに選手がいつせいに走り出した。ぼくは、最初津田さんに言われたとおりの五位か六位ぐらいにつけていた。ぼくは五、六位につけたまま下り坂を下り、平らな所にくると、だんだんに選手が最初とぼしす

きたためか、つかれてスピードダウンしてきている。しかし、ぼくにはまだまだ体力は残っていた。ぼくはスピードダウンした選手をぬかし、どんどん順位を上げていき、トップグループに追いついた。そしてあと少しで中けい所というところでスパトかけて、前を走っていた栗田をぬき、二位を走っていた地区にあと一步の所までいったが三位に終わった。

しかし、その後の人のがんばりで、ぼくたち由良地区は第二位というすばらしい記録が出た。初めての駅伝で、準優勝という記録が出てうれしかったです。



駅伝大会

五年 中西 大二郎

今日は、駅伝大会だ。

ぼくは、ほけつなので、走るか走らないのかわからない。ぼくは結人君のほけつだからバスで結人君のいる場所に向かった。きてみるとおぼちゃんと結人君がいたのでいっしょに体そうをしてアップもした。

「九番の人がすごく速いらしいで。」と、おぼちゃんが言ったけれど、ぼくと結人君はあまり気にしませんでした。最後に二人でダッシュをして終わりました。

位置について、ドン！でスタートしました。ぼくはほけつなので、バスに乗って後で行きました。

ぼくは、ほんの少しだけしか見れなかったけど、終わって結人君に何位か聞くと、「三位やった。後一步で二位やっ

たのに。」

と言ったので、すごいなあと思えました。

次はふみかちゃんが走りました。ぼくたちは、宮津市民体育館にもどりました。次々と何位か放送してました。

由良は四位だったけど、大ちゃんも二人もぬいたけれど、最後らへんで、ぬかれて二位になってしまいました。しかし、二位になったけれど、すごくがんばったと思います。来年は、選手になって金メダルをとりたいたいです。



がんばった宮津市駅伝大会

六年 船野 大

今年ぼくは、とつてもがんばることができました。

前日から、かぜがみでえらかったけど、仏様にお祈りして、家を出ました。選手の前として、宣せいをやり、うまく言えることもできました。去年、白バイの後を気持ちよく走れたけど、結果は、思うほどではなかった。今年は一生存けんめい走りました。ぼくが走った区間は、観光客が多いし、じやり道で走りにくかったです。

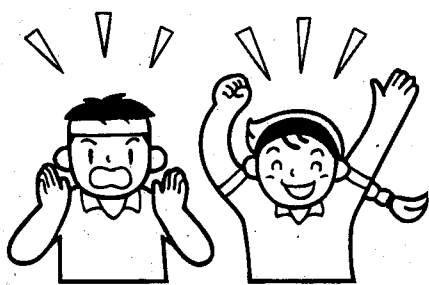
ぼくは、四位でたすきをもらいました。先頭との差は、四十秒です。ぼくは、「ぜつたいぬいてやる!!。」と思って、最初から、とばしきみで走りました。

直線になった時、日置が見え、その先に、栗田が見えました。またぼくは、ピッチをあげて、

そしてぬくことができました。ぼくは、「やったぞー。」と思ってゴールしてから、とてもうれしかったです。

ぼくが二位にしたのを、後の人が続けてくれたので、由良は銀メダルを取ることができました。そのうえ、目標だった区間賞まで取ることができて、がんばったかいがありました。

そして、メダルと、区間賞のトロフィーは、ぼくの宝物です。



まさか!!

六年 山田久美子

駅伝大会

六年 中西郁佳

練習の初めは、六年生の女子も、三、四人が集まる日もあって、私は選手には選ばれることもないかと安心して走る日が続きました。

本当の大きな目標は、ダイエット(すみません)。

日がたつにつれて、六年生の女子がだんだんへっていききました。

「選手に選ばれたらどうしよう。」という不安があったけど、でもまさか、まさかと思いつながら……。

選手の発表!!
裕喜お兄ちゃんは、四区、私は九区でした。

また、由良の順番とかで、選手宣誓まですることになってしまいました。

「はあく。」

大変なことに、お兄ちゃんは、高校生と競走する四区、でも私

は、一番短いきよりの所なのでがんばろうと思えました。

自分の区間についたら、アップなどをして、八区の人が来るのを待ちました。

きんちようの中、新宮さんから二位で、タスキをもらったけど、そのすぐ後ろには、栗田がついていました。負けたくないと思つたけど、三位とぬかれてしまいました。このままでいくと銅メダル。

がんばって二位になってほしいと思つて体育館にいくと、由良が二位という事で、びっくりしました。

小学生最後、とてもきんちようしたけれど、すごくいい思い出になりました。

本当にありがとうございます。

六月三日、駅伝大会がありました。

練習は一カ月ほど前から夜に由良小学校のグラウンドでやっています。私にはあまりいっていませんが、私はあまりいっていません。少し前に試走があつて、道はわかつていきましたが、二区は二kmもありました。当日、八時前に里センターに集合してバスに乗り、ミツプルのとなりの体育館について、しばらくまっていたら

「一区、二区の選手は集まってください。」

と放送が入ったので行きました。

一区を走る田中君はもう行ってたのでほけつの大二郎君とバスに乗って行きました。着いたらアップをしたりして、日かげにすわりこんでいました。そのころは、ものすごくきんちようしていました。心臓がとても

ドクドクして、何もする気になりませんでした。「ぬかされたらどうしよう……」

「そればかり考えていました。そのころ、校長先生と教頭先生が来てくれていて、うれしかったです。そして九時三十分、一区がスタートし、七分ほどで、一区の田中君がきました。一位できたのは府中でした。そして次はどこ……、人が見えて、

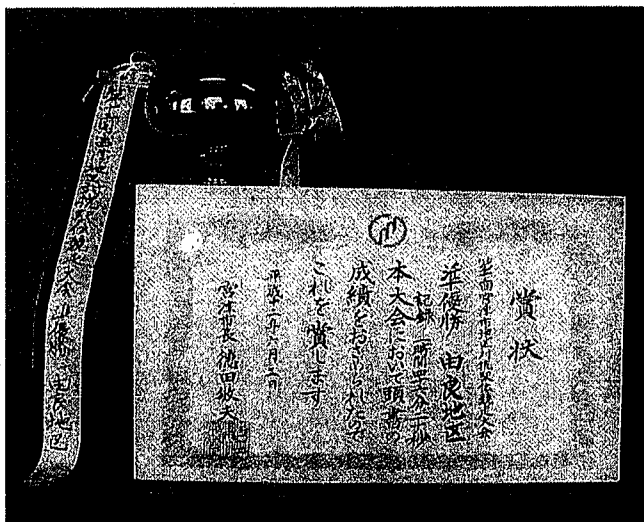
「六番」(由良)

とよばれました。二位と三位はほとんど同時で、私はもらってひっしで走りました。そして三区の人にわたしました。三位とは差がついていました。それから車で応援していました。由良の順位は不安定で二位になったり、三位、四位になったり……。でも最終的には何と二位!とでもうれしい!それに私と大ちゃん



んは区間賞をもらえました。とてもうれしかったです。閉会式で賞状とトロフィーをもらってバスで帰りました。

里センターに帰ったら、銀メダルをもらいました。ごはんをみんなで食べ、おかしをもらって帰りました。とても大変だったけど、とってもよい一日でした。



四部対抗球技大会(野球)に参加して

岸田 格

八月十二日、恒例の四部対抗球技大会が行われました。

こちらに帰ってきて三年目、昨年に引き続き声をかけていただき日頃の運動不足解消にと参加しました。仕事柄単身赴任をしているため週末しか由良に居られません。地元の方々とお付き合い出来る機会の少ない私が、唯一参加でき親交を深める場として活用させていただいています。

大会当日は前日の雨が朝方まで残り出来るのかなと心配をしていましたが、途中から日差しが強くなり日陰を探すほどの天気に回復し良い汗をかくことが出来ました。

さて試合のほうですが、我が四部は一回戦・決勝戦ともに勝ち、見事優勝することが出来ま

した。チームの中は和気あいあいとしながらも、やるからには勝ちたいという気持ちで戦い、見事勝利をつかむことが出来ました。昨年は残念ながら一回戦で敗退したのでやはり勝つということはうれしいものです。

我がチームのメンバー構成は二十代前半から五十?歳までが参加しており、親子バッテリーの活躍や若手のファインプレー等があり、また若手が出塁すれば「走れ!走れ!」、年配者が出塁すれば「無理するなあー!」の掛け声が出る中、全員が自分の出来ることを一生懸命やっつての結果が今回の優勝に結びついたのでと思います。また、ケガをすることもなく無事大会を終えることが出来たことは大変良かったと思います。

私はといえば、若い時の気持ち

ちはいつまでも持っているのですが体のほうが付いてこず、打席に入ればボールに当てること
が精一杯、打球が飛んでも足が
思うほど前に進まず一塁までが
こんなに遠いものかと痛感する
散々なものでした。なんの活躍
もしていないのに数日間筋肉
痛でつらい思いをし、年を感じ
させられるものでした。参加さ
れた他の皆さんはどうでしたか
でしょうか?

大会が終わり夕方に行われた

祝勝会での美酒と親交を交えられたことがなんとも言えない最高のものでした。これからも体が動かせられる限り、声をかけていただける間はこの大会に参加し、この美酒の味を何度も味わいたいと思います。これから来年に向けて体力増強に(維持することすら無理なことは分かっています)がんばっていきましょう。今日この頃です。

四部対抗ソフトボール大会

酒本 茂樹

恒例のお盆のソフトボール大会についての「公民館だより」の原稿依頼が舞い込んできました。

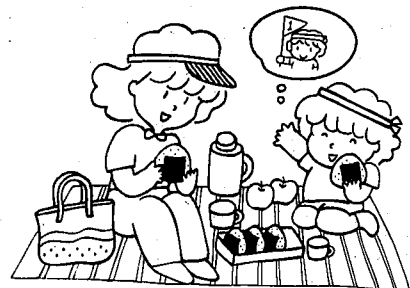
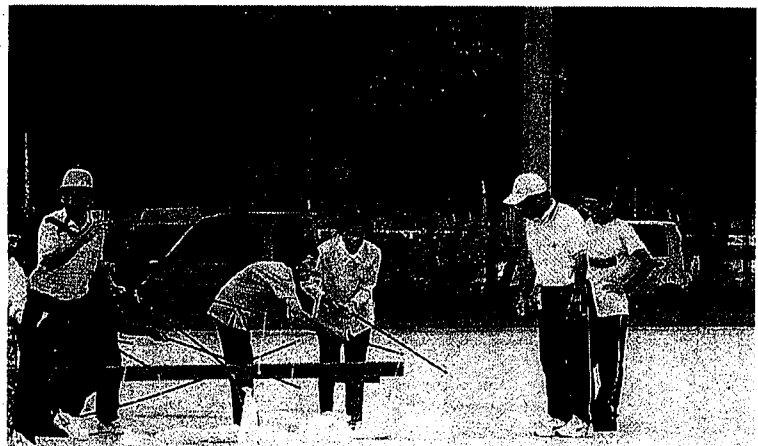
毎年、優勝した地区から寄せられるらしいです。今年もソフトも四部が優勝しましたので同じ地区でもうひとり頭を

抱えている人がいるはず。締め切りが近づいて来ていますので、なんとか記憶をひっぱり出して進めて行こうと思います。なにせ今、祭りが終わったところですから。

一年ぶりに握ったソフトボールの大きいこと、キャッチボー

ルをする肩が抜けそうでした。そうこうするうち試合が始まりました。一回戦の相手は一部です。わたしは、となりのヤツサンと黄金のバッテリーを組んで迎え撃ちました。キャッチャーも取れない消える魔球に相手打線は大型扇風機にはやがわり、反対にうちの打線には不動の四番がドツカと腰を据えているため、着々と得点を重ね余裕の勝利？けれども戦い終わった後、となりのヤツサンがこう言いました。「頼むでミットまで届かせてーな。ワンバンばかりで足がアザだらけになるわ」、自分の下手さ加減を棚に上げて華麗なピッチングにケチを付けて来ました。なるほど、体力のなさが幸いしてボールがベースまで届いてなかったらしい。これでは相手も打てないわけで、そんなボールに付き合ってくれた一部の人たちに感謝カンシャ。けれども、この手はもう使えないな。優勝戦までの間、缶ビール片

手に野球の試合をみていました。若い人のプレートはハツラツとして気持ちがいいし、その中に混じっている昔の野球少年の姿に心地よい時間を過ごさせて頂きました。やがて決勝戦が始まりましたが、慣れない運動の疲れか、はたまたアルコールのせいかもしれませんが、あまり記憶がはっきりしないのですが、とにかく優勝できました。わたしは小さな頃から見ていて由良地区で変らないのが十月の祭りとその夏の行事ではないでしょうか。この変らないところが良いところで、これまで携わってこられた諸先輩方のご努力に感謝したいと思います。最後に四部のみなさん、来年は優勝する前にくじ引きをして原稿を誰が書くか決めておきましょう。なに、来年も勝つつもりか？ 当然です。



地区運動会に参加して

大森 章 弘

八月の猛暑から暑さを覚悟した当日は、以外に涼やかな運動会日和となり、楽しく地区民や小・中学生、園児が親交を温め、競技・演技できた一日でした。

今回は前回運動会の反省から、次の事項が改善実施され、非常によかったと思います。

一つは、四部対抗リレーについて選手全員が半周走ることになり、短時間でスタート準備ができたと思います。実際リレーの選手配置等スムーズになされていました。

二つは、二四〇才リレーで、選手の年齢の合計が二四〇才以上であれば何才でもよいことになり、選手の年齢合わせに苦心していた各自治会も、容易に選考できたと思います。三部においても今回は、あまり時間が掛

かりませんでした。

三つは、小学生の学校行事としての参加で、三種目に出場してくれました。可愛い小学生が一生懸命に競技や演技をしていく姿は印象的でした。これにより種目が賑わい、盛り上がり、大人と交流ができたと思います。

四つには、高齢化の現状を考え六十才以上の種目を一つ増しました。地区民の高齢化は著しいので、タイムリーな配慮です。

個人的には、もう一つか二つ増して楽しんでいただければと思います。そのためには気楽な種目を要します。気楽に出場してもらうためには、得点をはずした種目を増すことも方法です。特に女性も気楽に参加してほしいと思います。

さて、小学生の参加で活気づ

いたけれども、夏休み明け直後なので、準備期間が少なかつたと思いますが、小学生の種目も増してはどうでしょうか。

また、運動会への取組みは各地区とも、大変努力していただきました。三部についても非常に積極的な取組みがなされ、各班の参加可能者を把握し、選手選考しました。そしてできるだけ多くの方々に出場していただくとうと、出場可能者全員と思われる名簿を作って準備がなされました。その意気込みは当日の応援席や選手の数に表われていたように思います。

開会となり、君が代が演奏され国旗が掲揚されましたが、宮津市旗の掲揚及び市歌の演奏もあればよかつたとの意見を後からお聞きしました。私は歌詞を見ないと歌えませんが、なるほど市歌に親しむよい機会だと思います。

今回実施された種目は決して多くないのに、時間が思いの他

かかりました。前の種目から次の種目に移る間に多くの時間を要しました。用具等は配置されているのに選手が位置に付くのが遅れている種目がかかなりありました。それがうまく進行できれば種目をもっと増せます。

この運動会を毎年実施するべきだとの意見もあります。運動の得意な人もそうでない人も楽しめ、日頃の運動不足を少しでも解消し、親睦を図る機会となる運動会を！という考えです。準備等大変なのですが得るところも多くあります。

さて、今回も役員の皆様には大変お世話になり、すばらしい催しにいただきました。数々の準備や各種目の点検、内容のチェック、そして前日当日の任務等、非常に沢山ご尽力いただきました。おわりになりましたが、心よりお礼を申し上げます。

地区運動会に参加して

濱野 純子

九月二日、天候に恵まれ、爽やかな秋空の下、由良地区運動会が盛大に開催されました。

私にとって、今年の地区運動会は、例年とは、少し違っていました。

「運動会に出ていた？」と聞かれましたが、ちゃんと参加しておりました。ただ、競技に出ている姿はなかったはずですが放送を担当させていただいておりましたので、声のみの参加でした。

初めての経験で、ハラハラ、ドキドキ、緊張のしっぱなしの一日でした。

良く見える正面の本部席から見させていただきましたので、緊迫した競技や小学生の演技も良く見え、思わず、興奮して、マイクを持ったまま、叫んでし

まいりました。

付き添いの保護者の方が一生懸命になっていた幼児のかけっこは、とてもかわいかったですね。カスタネットの音も清しく響いて、心とむ小学校低学年による演技『チャーびらさい』

ハッピ姿も凛凛しく、力の籠もった迫力ある小学校高学年による演技『キッズソーラン』何度見ても素晴らしかったです。

この日の為に、夏休み中にもかかわらず、練習に登校してくれていた小学生の皆さん、ありがとう。

思わず、笑ってしまった中学生による頭脳のプレーの棒引き。ボールが意志に背き、どんどん先に行ってしまったかと思えば、いて来れなかったかと思えば、ボールやリム、かごが身体の一

部のように、上手に操る人もいたり、とても楽しく見ているうちに、放送するのを忘れてしまいう程、見入ってしまいました。

リレーはもとより、どの競技も白熱し、応援席もかなり、盛り上がり上がっていた様子でした。

日頃から、鍛えている人も、そうでない運動不足ぎみの人も、皆んな揃って競技に参加し、又、応援したりで、素晴らしい一日でした。

それに、我が浜野路が優勝する事ができ、大変、嬉しく思っております。

運動会終了後の慰労会も、盛大な祝勝会となり、大分、お酒も進んでいたようでした。私は直接、地区優勝に貢献する事は出来ませんが、放送中に応援が、多少、入っていたかも知れませんが、私もこの祝勝会では、皆んなと一緒に勝利を喜び、又、笑い、無事、終った事に安堵しました。

良い経験をさせていただいた

上、優勝の喜びまで体験する事が出来、ありがとうございます。

又、この場をかりて、一日中拙い放送にお付き合いいただきました由良地区の皆様にお礼申し上げます。

皆様、本当にお疲れ様でした。



子育てサークル

水曜日の集まり

木谷 瑞 恵

このサークルの始まりは、今年の一月頃。

冬になると雪でなかなか外に出られない。ただでさえ人数の少ない由良の中で、知り合う機会もなく、皆はどうやって子供と毎日を過ごしているのだろうと、そんな会話の中からでした。

始めは、港の児童公園などで出会った親子三、四組から、『サークル』と言うより、暇だったら皆で遊ぼうと言う感じでした。今では声を掛け合い、幼稚園に入るまでの子供さんとそのお母さんが、約十組ほど集まるまでになっています。

現在の活動は、毎週水曜日に、由良の里センターの一室をお借りして、午前中の一〜二時間を皆で楽しく過ごしています。

内容は、音楽に合わせて、体を動かして遊ぶリズム体操や、歌を唄ったり、手遊びをしたりしています。時には、皆で遊びのアイデアを出し合って、お絵

書きや、折り紙を持ち寄りたり、お母さん達が絵本を読んで聞かせてくれることもあります。天氣の良い日には、公園で遊んだり、春には、由良駅前通りの桜並木を見に行ったりもしました。

このような活動の中で、今まで以上に、親子のスキンシップがとれたり、子供同志のケンカや、皆で遊ぶと言うことを通して、子供達の新しい部分に会えたりしています。

また、お母さん方からは、たくさん遊んで帰ると、「ご飯をモリモリ食べてくれる」「お昼寝を

スツキリしてくれる」と言う声もあつたり、その日の活動をノートに記録したり、感想を書いたり見たりすることで、お母さん同志の子育ての情報交換も出来たりと、親子で日々の成長をしているようです。

これからも毎週水曜日が、楽しみになるようなサークルになればいいなと思っています。

最後になりましたが、現在、小さなお子さんをお持ちのお母さん、気軽に参加して下さいね。皆で待っています。



旅は気儘に……。

パート4

丹後由良ターミナルセンター

◎二〇〇一・八・二九

ある高校生五人!!

ボランティアで、ゴミ拾いに、
やってきました。

雨が降ってきてかなりぬれた。

寒くてカゼひきそうです!

あと二日で、夏休みが終わる……

宿題やっけないヨ!。読書感想

文が……。本さえ読んでないの

に!!

◎二〇〇一・九・一三(木)

兵庫県尼崎市からきました。

由良川が好きで、いつもはJ E
Tをしています。今日はJ E T

じゃなく旅行です。都会での、

ストレスがたまっただうしてい

いのいか分らない時、この田

舎の緑の中で、のんびりと考え

て、イヤな事を忘れたいです。

いつかひでちゃんと、これまた

様に。

暢子

◎今回が、初めての由良です。

一泊して、今日は、天橋立に、
行きます。この電車に乗りたく

てきたので、楽しみです。いっ

ぱい、いっぱい思い出を作っ

て帰ります。西宮のYUKO&T

ASHIでした。

◎発車まで七分間。駅構内の待

合室。可愛い秋の花。空は澄み

きってよいお天気!! KBS放

送が流れ、木の椅子にゆっくり

座って一筆かいています。かわ

いい空間です。今度はどんな花

が置かれているのかナ。虫の

声も聞こえています。

——主婦——

◎二〇〇一・九・二四(SUN)

またまた由良駅にきてしまいま

した。いつも私達のくる場所は

ここ! あっ! 電車きた。でも

降りる人は一人だけ。時間が時
間だしね。ちょっと駅を探検
してきます! チョク楽しい♡
外は気持ちいい。

◎H 13・9・30 AM 4~6時

今日駅の待合室で泊まらしても
らったよ。神戸から4人、車で
きた。温泉入りたいねんけど、

どこで入れんねんやる?

◎二〇〇一・八・一九

今日、何年振りかに由良にきま
した。子供は車酔いの為一人で

この駅から京都に帰ります。ちゃ

んと帰れるかな。どっちが早

いかな? 夏の由良もいいけ

れど、季節はずれの夕方すぎの

由良の海が大変好きです。

いつか一人できてみたい。由良

の海が大変好きな伏見区の、S

AKO。

◎今日は少し曇っていた。

この不景気だから、私三十五才

は、未だ職も見つかっていません

ん。なのに旅行(一泊)してい

ます。

就職探しています。三十五才ファ

イト!! 大阪府ペンネーム元カ
メラ小僧より

◎丹後由良駅の駅員さんへ

私は大阪の私鉄駅係員になり、

もう三年がたちました。同じ鉄

道員として、やっぱり、こうい

う平和で人々とのふれあいを、

大切にしたい駅で働いてみたいな

あ。正味の話、この三年間で、

起こったトラブルは、十件以上

ある。内三回殴られました。下

町の人間は、すぐに手を出しま

す。そんな人には由良の雰囲気

を味わって、気を和らげてほし

い。大阪にもこんな駅があつて

ほしい。

* * *

旅をして、新しい出会いの中

で、気持ちを切りかえ、リフレッ

シュされていく方も多い事、よ

く分かります。出発のスタート

となるべく暖かな駅でありたい

です。さらに続く……。

短歌

藤本史代

大森萬喜子

紺碧の広がりふかき由良の海かがやく波に旧りし歌思う

いただきし熱き桜湯ほんのりと香る塩味旅の憩いに

絵手紙に挑戦せんと描きゆく茄子はようやく様になりたり

大森美智子

みかん風呂袋を抱きし感触は遠き吾が子の温みにも似る

病む友を見舞いて走る沿道に今を盛りと花みずき咲く

荒海に二隻の船は見ゆれども由良の浜辺に人影もなし

等身のわれを受け止めくれし人逝きし秋来ぬ風の譜をきく
妻というゼブラゾーンをはずれたりひとりなる身に添う秋の翳
双掌より逃がしてしまひし幸せの欠片の如き夕月浮かぶ

とよ子

お茶ごっこ居並ぶ園児ものしずか桜活けたる毛氈に座す

もみじ手で指をそろえて碗まわす沙瑛の仕草に喜びぞわく

緋毛氈にさくらほのぼの慎ましく肩寄せあえる園児らを見ており



山口美子

わが肩に落ち来しもみじ手にとりて愛しきものと持ち帰りたり

係留の船上にいま満月と葵あおいのうえ上を友と語りぬ

日が落ちて水を持ちゆく草むらの蝗いなごとびかう初秋の道

中西夏江

なんという秋の祭のやさしさよ童こらがしずしずと樽御輿みこしひくさま

のびやかにいのち明るく身を緊しめて太鼓響動とよもす秋の少年

いくばくの陶醉を抱かきて二百年由良奉納太鼓のゆるぎなき響きょう

川柳

坂本妙子

背伸びせず暮せば軋み無いこの世

虚勢張るあの子ほんとは寂しんだ

てのひらに幸せ一つ温める

現在、由良神社祭礼行事に大切な奉納太鼓の起源は、寛政元年（一七八九）の由良脇、飯沢吉蔵本にみることが出来ます。それは、「神歌并太鼓」という十八枚綴りの冊誌で、「神楽踊太鼓」を始めとする十五の太鼓踊の名稱が記されているものです。

他に、佐原本、大森本というものもあり、年青、庄屋の五ヶ村立会のもとに、蔵書の検討を幾度もやりながら、奉納芸能を伝える努力が重ねられて今日に至りました。



「郷里雑感」

京都市東山区 小室裕之

私が郷里の由良を離れて四十余年余りが経ちますが、子供の頃を過ごした故郷は、今も夢に見るほど思い出深いものがあります。このたび、旧友の枝川主事の勧めにより、由良のことなどを思い起こしてみることになりました。

由良は山、川、海と遊ぶにと欠かない環境に恵まれていますが、私の心に残る原風景は、由良川には舳(えり)、ポンポン船、伝馬舟、鉄橋にはSL、道には馬車、芝居小屋、浜には塩田、地引網、夜空には満天の星、灯台の灯など、主に昭和二十年代の風景です。当時の広い松林に続く砂浜は、水辺まで百メートルもあつたでしょう。この風景も今では大きく変わっておりますが、豊かな自然はいつま

でも残してほしいと思います。

由良での印象深い思い出は、小学生の時、浜の路地区の「山の神」の行事で、正月に「家内安全、商売繁盛」と地区内を走り回ったこと、中学生時代は庭球部で毎日練習し、丹後地方で優勝し、三年生部員四人が揃って京都府大会へ出場し、大森宏、浜野勲、榊岡道夫の諸君と合宿生活したこと。また、由良川中学校の八雲校舎が昭和二十八年の台風による水害で泥に潰かり、全校生徒が徒歩で往復し、机や椅子、床などの泥落としなどの応援に出かけたこともありました。いずれも学校生活と共に懐かしい思い出です。

私は、今年京都市役所を定年退職し、第二の人生として碁会所を経営し碁を教えております。

囲碁は五十年来、生活の一部でしたので、好きなことのできる人生という念願の実現に幸せを感じているところです。

その囲碁を始めたのは小学三、四年の頃で、兄や近所のおじさん達の碁を見て覚え、その人達を先生に間もなく追いついてしまいました。子供の時に始めたことは、さほど熱心にやらなくても上達するもので、六年生の頃には小学生新聞にも掲載され、その記事を母が大切に保存しておりました。

由良は碁が盛んなところで、毎年正月には大会が開催されていましたが、私が参加するようになったのは高校卒業以後のことです。それからは、帰省するとよく近所の人達と対局するようになりました。私の父も村の強豪でしたが、ライバルの中西定蔵さんにはどうしても勝てなかつたそうです。この中西さんが私の師匠で、小学生の時九子から始まり、高校の時四子で、

実力は初段くらいでした。最後は私が白で二子でしたが、私に白を明け渡す時、「どうとう親父の仇をうたれた」といつてくれたのがうれしかったのを覚えております。

就職してからはすぐ職場の第一人者となり、偉い人と対局したり、サークルの世話役をしてみましたが、職場のあちこちに知り合いがきたり、初対面の人でも名前だけは知っていてくれるなど、いろいろ便利なことがありました。各種の大会にも出場しましたが、京都ではベスト八が最高です。由良からも、大石さんが何回か京都大会へ出ておられました。会う機会はありませんでした。全国大会へも数回出ましたが、さしたる成績は残せませんでした。

私を育ててくれた由良に愛着は尽きません。郷里由良の益々のご隆盛をお祈りします。

冠島 (続)

中西夏江

空から眺める冠島は、全山濃緑、その周囲は絶壁という峻嶮さ。くつきりと浮かぶこの無人島は恰も大海の星かとも思われる。これは、中西衛氏の空中撮影(一九八四)による映像である。

昔から「雄島参り」として、若狭湾沿岸に信仰されてきたこの冠島には、老人嶋神社があり、今年も舞鶴市の野原、小橋、三浜の漁船約二十隻が、大漁旗を掲げ、約二百人の参拝。神前には鯛や酒が供えられ、海の安全と豊漁を祈願する神事が神官によって行われた。

いつも冠島から日の出を見るといわれる伊根町の新井からも毎年参拝行事が続けられている。この島は女人禁制であるにも拘わらず、昭和二十四年(一九四九)夏、私達女性も上陸する

という幸運に恵まれた。

当時、由良青年団団長の山下憲弥氏の発案で「雄島参り」が実現した。港地区の発動機船二隻は、青年達を乗せて船出。銘銘、好みの席に陣取って潮風を受け、波飛沫を浴びながら高らかに青春の一日を謳歌したのである。

島近海の美しさは、息を呑むばかりの奥深い紺碧。戦中戦後旅行など、遠出不可能だった私達の目に、それは鮮烈な極上の美であった。山下氏の目にはブルシヤンブルー、私の目にはエメラルドグリーンに見えたのだった。(見る場所によって異なる)上陸して老人嶋神社に参拝。歩きにくい石塊の道には、鳥の羽や落葉、大樹の近くには大水窪鳥の巢穴があった。祠に保存されている米俵は、

漁師の非常食として大切なもの。

海の神が棲むこの島は、漁師達のかけがえのない避難所としてその命を守って来たのだ。無人の島がもつ冷涼ともいふべき靈力が、この鬱蒼たる島内に満ちているようにも思われたりした。

当日の圧巻は、塩見友三郎氏の潜りであった。氏は単身潜水し、栄螺や鮑を捕獲するという早技。二十二歳の若さと海の男っ振りを発揮された。

今にして思うことであるが、発動機船には常時それなりの救命具が備えられていたが、何十人の個々が身につける救命胴衣は如何だったろう。私達は何の不安も持たず、眩しい陽光が煌めく海上を楽しんで往來し、静かな冠島で簡素な昼食をとり、微笑んでみんな無事に下船した。安全運航をして下さった船長さんは何方であつたらうか。今も深甚の謝意を表して止まない。五十余年も前に遡るこの雄島参りには、あの時代の心があつ

た。

それは、敗戦後まだまだ物資不足が続く中、由良青年団活動を盛り上げるべく、運営資金を得る一つの手段として企画・実行されたこと。いま一つは運航のおおらかな許可である。代表の山下氏が申請と許可の承認を得る為に出向かれた舞鶴の「船舶運営会」責任者の寛大な計らいに因るものだったからである。

あの時代、どんな生き方があつたか—を思い、知ることともまた今日の人生の一齣であろう。

由良もかつては、漁業の賑わいがあつた。雄島参りも行われていたであろう。当然、漁業の儀礼も船霊信仰も、そしてまた禁忌も—。

「冠島と並ぶ沓島。その中で冠島は常世島とも呼ばれ、冠と沓を残して仙人となるという道教の尸解仙を表している」と伊根の徐福伝説にも一役を買っている冠島は、きょうも遠く美しい。二〇〇一・一〇・一〇(了)

由良に住んで四十年

思い出すままに(七)

選挙あれこれ 四方 寿朗

回答者自身が記入し、封緘された用紙を公民館役員が回収した。無回答を除き一二三の結果

*投票について

自分の考えで良いと思う人に投票
六五%

自分も良いと考え他からすすめられ投票
二三%

他からすすめられ自分の意志に反して投票
六%

*事前に候補者をしぼる事に

賛成 五四%
反対 一八%

どちらとも言えない 二一%

*候補者の自治会推薦に

賛成 一七%
反対 六〇%

どちらとも言えない 一九%

*由良地区内の選挙運動は

行き過ぎであった 五六%
現状ではやむを得ぬ 三四%

要するに「由良の選挙運動は行き過ぎであった。自治会推薦には反対。事前に何とかして候補者をし

ぼれ」というのが地区民多数の意向であった。

時あたかも蟠川府政の全盛時代。二十人位が、身近な問題を話し合う自治学級が行われていた。昭和四三年度は由良六地域が推進地域に指定された。当時出された問題は、下水道の整備、上水道の設置、新火力発電所問題、小学校改築、などであった。それらの中から「明るく正しい選挙」が共通の課題として選ばれた。各地域で二回ずつ計十二回話し合った。

次にその記録を要約する。

地域推薦 賛成論

*自分の地域の候補を応援するのは人情としてやむを得ない。

*広く市全般を考える候補者が居ないから、当然だ。

*どんぐりの背比べなら、地域の人をとる。

*選挙に落ちるとみじめ。勝つた

めには、どうしても地域推薦に。*他の地域からでも、多くの票をもらえる人なら別、一般には強力な推薦が必要。

*きれいな事を言っていた地域は現実には落選している。

*宮津市の他の地区でもしている。きれいな選挙をしても、由良だけが馬鹿をみる。

*隣の神崎で議員が出ず、何かにつけ損をしたことがある。

*市は自治会組織をよく利用する。選挙にだけ利用するなど言っても無理。

反対論

*地域が応援する方法が問題だ。

*有力者の圧力で基本的人権が侵され、近所つき合いがこわれた。

*地域推薦はどうしても不正な選挙運動につながる。

*先の世論調査でも六〇%の人が反対している。

*自治会の組織の中で選挙運動はすべきでない。

*自由で正々堂々の選挙でありたい。

*地域推薦は「投票は個人の自由」の原則に反する。

*地域に反対すると村八分にされる。

*投票率が九七%は異常、地域推薦が理由。

*道路や下水溝工事は本来行政の仕事で、選挙民が議員にこれを期待するのは地域推薦の弊害だ。

不正な選挙運動

*戸別訪問は主に婦人運動員が受け持ち「地域のため一生懸命やるのが何故わるい」と違法を自覚せず、地域の対抗試合のように、毎晩交代で運動した。激しい選挙で最大の被害者は、立場の弱い婦人だ。

*とにかく地域推薦が不正行為やみにくい争いに拍車をかけた。

明るい選挙を推進するには

*警察にどんどん違反を摘発してもらおう。

*候補者を二人にしぼる。だが第三者がしぼるのは違法。

*地域の話し合いで候補者を選び、外見だけおだやかな選挙をするのは論外。

*由良地区の統一候補が理想だが、それを決める方法が問題。

*地域推薦だけはもうこりこりだ。

(以下次号)

由良小学校校舎の傍らにポプラが聳えていた頃

浜野路 大 森 孝

『おじいちゃん、この草取って！』孫に云われて、土手のとある草を挽ぎ取る。田のふちの雑草の一種である。茎は木賊に近い。『ちぎりあい(截り勝負)しよう。』孫に云われるまま、その草を引いて、草の柄の部分絡めて力をこめて引く。『勝った。』

孫は茎がちぎれなかった自分の手元の草に歓声をあげた。『柄のところ離さずに、しっかり持ってや！』私は語りながらも侘しかった。

それというのも、祖父である私の小学二年生の昔には、こんな「ちぎりあい」は、小学校の校舎脇に何本も生えて、巨樹になった見上げるポプラの落葉を用いて遊ぶのが習いであったからだ。秋が深まるにつれ、梢や枝先の方から、色づいたポプラの葉っぱが地面に散ってきて、

学童達は、吾先にと散らばった葉っぱの中から丈夫そうな、(葉柄の一きわ太そうな)のを掴んで用意した。そんなポプラの葉での「ちぎりあい」は、小学二年の学童たちのもう一つの遊び—メンコ(パン)やラムネ玉あてや、ケンパなどの隣に位置していた。そんな、回想に捉われていると、孫がなおも挽ぎとっている柄がまるで木賊状のこの草が、遊び道具としては、いかにも貧弱である。六十五年前の小二の私と、二十一世紀の小二の孫の遊び道具として比べてみれば、前者の方が宝物ではなかったろうかとさえ思われて、喪われた宝物への哀惜の思いが深い。

『おじいちゃん、はい、これ！』となおも横の田の土手を探して、私に手渡してくれる孫に、私はとうとう、『雄司君の学校の外に

はなア、ポプラという大きな木が生えていてなア、秋が深まると風に吹かれて、葉が散るんやなア。それを吾先にと朝早く学校へ行つて、大きな落葉を探さんや。そして強い葉を手に入れて、ちぎり合いをする。面白かったで……。大きいのが強いでな。ようけゲットした者が勝つ』『それから、一時間目の始まりや』『女の子は、しらんけど、あまりせなんだと思う。まア男の子の力くらべだったかな。——』

帰りの自転車で、はしなくも小学校の横の道を通った。勿論六十五年前のブラックの校舎も、その山側(南側)に並んでいたポプラの巨樹の偉容はもはや見る術もない。実のところ寂しい限りである。

ポプラが学童の極く身近にあった植生であったも一つこの私自身思い出は、戦前の自分の学童時代の人生を彷彿とさせるものであった。即ち、入学してより卒業する迄の六年間は、教室

の窓際にポプラは在って、既に老樹の趣があつて、窓の外に疲れて目をやると、栗田航空隊所属の水上機だったか、『脇』の山の空に爆音を響かせて、舞い上がり、又降下しての訓練が、午前中の決まった時間にくり返されていた。座席が変わった学期に偶々窓際にきていた小六の或学期には、ポプラの聳える梢の枝ごしに機影を追ったことも日常の俵いだった。当時の私には、海軍機の爆音は、むしろ私に『しっかりやれ。』の叱咤激励のリズムだったなア。今の孫の学童期の人生と、祖父の夢みたいな六十五年前の学童人生は、ポプラの巨樹を媒介(ばいはい)として、も、すっかり異なったものになってしまった。想いは拡がって止まらない。

ポプラの梢に、しきりに機影を探した私にとって、現在の校舎の南側は、ぼっかり穴のあいだ、「ブラックホール」に見えるのだがな。どうなのかなア……。

由良の地名 — その二 —

丹後と伯耆の由良

小谷 一郎

平凡社刊、日本歴史地名大系二六「京都府の地名」の中で丹後国の歴史が述べられているところがあります。それには、

「史料綜覧」によれば、由良城（跡地は現宮津市か）は尼子勝久の属城とされ、天正三年九月二八日吉川元春の兵によって落とされ

たというのです。（同書六三一頁）
本当にそうでしょうか、先ず天正三年（一五七五）の頃の丹後の様子を見ますと、織田信長の越前攻めに、一色義有の下にあった矢野、大島、櫻井の丹後水軍は、数百艘の舟を相催して参陣し、若狭、越前（何れも現福井県）の海岸の村々に火をかけるなどして働きました。此所に出てくる大島というのが、丹後由

良を本拠にしていた水軍の大將です。一色氏はこの働きによって、丹後一國を安堵されています。（信長公記）

後に、明智光秀の与力として丹後に攻め入ってくることになる長岡（後に細川）藤孝は、丹波で桑田、舟井二郡を増加されることになっています。

丹後の由良と出雲（現島根県東部）は、一体、どんな関係があったのでしょうか。さきの「京都府の地名」の記載されでているところを見ることにします。要約すると

尼子氏は、月山富田城（跡地は現島根県能義郡広瀬町）を根拠に、山陰と山陽の一部にも勢力を伸ばしていました。天正九年（一五四〇）以来、大内氏、次いで毛利氏と間に攻防が絶え

ず、永禄九年（一五六六）十一月富田城を落とされてしまいました。尼子の遺臣達の富田城奪還の作戦には、永禄十二年（一五六九）丹後、但馬の水軍の協力を得て展開し、翌年には出雲に乱入し、日御碕神社（現島根県簸川郡大社町）を荒らししました。この神罰によって丹後田辺津（現舞鶴市）は病難火難に襲われたということです。

天正三年になって、但馬の名紹熙父子は、尼子討伐に出陣すると誓約して出兵し、同年八月、吉川、小早川両軍と伯耆で合同を遂げ因幡に押入ったのです。その直後に、丹後由良城も落ちたということです。

この筆者も、丹後由良城を吉川が攻めたことを納得していないのか、矢張り、唐突な形でしか書きようがなかったのだと思います。

因幡攻めがまさに始まる天正三年八月九月の段階です。そんな大切な時です。その戦線を放

棄して、因幡攻めと余り関係のない丹後に馳せ向かうことが出来るかと考えられるのです。そして、吉川の水軍が丹後に向かっていったという史料も見当たらないのです。この間のことについて、米原正義博士の「中国をめぐる戦国武将たち」を読みます。と思います。

永禄九年（一五六六）十一月に月山富田城が落ちて出雲尼子は滅亡し、その家臣達は諸国に流浪します。尼子の旧臣山中鹿介らは、毛利方が北九州で豊後（現大分県）の大友宗麟と戦っている時を狙って兵を動かすことを計り、京都の東福寺にいた尼子新官党の遺子を還俗させて、孫四郎勝久と名乗らせてこれを奉じて、永禄十二年、但馬、丹後の水軍を語らって出雲に攻め入ります。これは富田城奪還を成功させることができず、鹿介は捕らえられ勝久も退きます。天正元年、再び丹後から舟で因幡に上陸し鳥取城を落とした

りします。そして天正三年八月の事態になり、同十月には私部城（現鳥取県八須郡家町）が落とされたというのです。

この天正三年八月から十月までの間に由良城が落ちているのです。その由良は丹後ではなくて、伯耆の由良（現鳥取県東伯郡大栄町）であろうと見るのが理屈にあっているのです。

「史料綜覧」というのは、大日本史料の史料名を集めた正確な年表です。問題はその読み方の間違いです。由良は丹後の由良と解釈して綱文を書くときにそう書かれたのでしょうか。勿論、これは当時の一級の歴史学者が編さんにかかわられたものであり、「日本歴史地名大系」本の丹後の部分の歴史関係の執筆者は中嶋利雄先生と思えますが、文献資料を大切にされる人でしたから、天正三年丹後由良城の事は無視できずに書き込もうと努力されたのだと思います。

(一三・一〇・一一)

編集後記

今回も発刊にあたり多くの方々から寄稿していただきました。

由良の子どもは元気です。

宮津市地区対抗駅伝の活躍、ドキドキしながら由良地区の代表として立派にタスキを渡してくれました。

子ども地蔵盆、そして区民運動会と地域でのふれあいの輪は広がっています。

旅は気儘に……由良を訪れた旅人の想い出を大切に豊かな自然を守っていきたいものです。

由良はよいとおこ、由良音頭のひと節ですが皆さんが由良を守っていきこう、住み良い由良にしようとの気持ちで寄稿文から強く感じられます。

前号についてご指摘をいただきました。一行十六字で活字が小さくなっています。(従来十四字)

活字を大きくして読みやすくと願っていましたのに恐縮しています。

(飯澤)

訂正とおわび

前回の公民館だより第一二二号で前館長 酒田 治氏の退任のあいさつに誤字がありました。

八行目、さて仕儀 は私儀が正しく訂正しておわびします。



